

# あじさい



第 128 号

2026 年 3 月  
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



日本野鳥の会三重では会員有志による島嶼調査の機運が高まっていて、2025年8月には「三重県島嶼プロジェクト」が設立されました。当調査では主に紀北町沖の島嶼を中心に、鳥類の生息状況および繁殖状況の確認を目的としています。現在紀北町沖の島嶼で生息が確認されている鳥類のうち、カラスバト、カンムリウミスズメおよびウチャマセンニュウは三重県指定希少野生動植物種に加えられており、これらの生息状況を継続的に把握していくことは県の希少種保護の観点からも意義があると考えられます。当プロジェクトの調査対象種のひとつであるウチャマセンニュウについて、勉強もかねて記事投稿したいと思います。

## ウチャマセンニュウとは

ウチャマセンニュウ *Locustella pleskei* は日本列島や朝鮮半島、ロシア日本海岸の島嶼部で繁殖し、冬季は中国南部で越冬します（三重県 2015）。日本では夏鳥で、伊豆諸島の一部や本州（主に紀伊半島）、四国、九州の小島に局地的に生息します（水谷 2020）。生息環境について、伊豆諸島の三宅島では丈の低い海岸性照葉樹林に生息しています（永田 2008）。ウチャマセンニュウは元々シマセンニュウの亜種として扱われていましたが、尾羽や嘴などの形態的な差異およびミトコンドリア DNA 解析により判明した遺伝的な差異から、現在では別種と扱われることが多いとされています。しろちどり 118号でウチャマセンニュウとシマセンニュウの識別について述べられていますが、さえずり以外での野外識別は困難とされています（平井 2023）。ただし、シマセンニュウの繁殖地は北海道でありウチャマセンニュウのそれと大きく異なるため、特に繁殖時期においては確認場所で両種を判別して差し支

## 目次

ウチャマセンニュウについて	2
表紙の言葉	2
環境省主催の探鳥会「伊勢志摩国立公園で身近な鳥を観察しよう」に協力しました。	4
ツバメの救世主あらわる	
～ツバメの子育て支援・活動家をご紹介します～	5
第2回三重県シギチドリ調査の結果	6
第2回シギ・チドリ調査を終えて	8
カワアイサについて	9
ジャパンバードフェスティバル 2025 に行ってきました	12
ヒメアマツバメの繁殖観察報告	14
推しの一枚 ヒヨドリ	17
事務局だより	17
奄美大島・国際サシバサミットへ参加	18
野鳥記録	20
理事会報告	24
探鳥会報告（2025年11月～2026年1月）	25
編集後記	28

## 表紙の言葉

ヤマセミ（山翡翠）

松阪市 小野 新子

初めてヤマセミに出会ったのはまだ野鳥に関心がない頃、夫の転勤で釜石の鵜住居（うのすまい）川の堤を散歩していた時だった。頭上でケッケツと鳴き声がし見上げると、見たことのない鳥が近くの本物のフジの蔓に止まっていた。頭がヤマアラシのようで羽が白黒の鹿の子模様の斬新な姿に私はてっきり籠脱けの鳥かと思っていた。

それから半年後、宮古野鳥の会主催の観察会が近くであったので参加し、変わった鳥の話をしたら“それはヤマセミで山の翡翠と言われる美しい鳥だよ”と教えてくれた。（ちなみに、翡翠はカワセミの異名で赤翡翠はアカショウビンのことらしい）・・・その時カワセミをスコープで見せてもらい、レンズの向こうの世界にすっかり魅せられ現在に至っている。

えないと考えています。

上述のとおりウチヤマセンニュウは島嶼部で繁殖しますが、移動の時期等では本土でも見られることがあるようです。長崎県諫早干拓での8～9月の調査において本種が6羽確認されていることから、越冬地へ渡去する前に本土の葦原に移動してエネルギーの補充等を行っていることが示唆されています（大槻・山口 2025）。

### 紀伊半島のウチヤマセンニュウ

上述のとおりウチヤマセンニュウは紀伊半島の島嶼部に飛来し繁殖します。三宅島と筑前沖（福岡県）の島では数百羽生息しているようですが、日向灘（宮崎県）から和歌山県にかけての生息地では個体数密度が低いとされており（永田 2008）、紀伊半島全体でも同様の傾向があると考えられます。

三重県において、1969年にウチヤマセンニュウ（当時はシマセンニュウ）は紀北町沖の耳穴島で初めて確認されました（倉田・樋口 1971）。それ以降は志摩市以南の島嶼部を中心に、下表のとおり記録されています（表1）。紀北町の大島について、2025年8月末に上陸した際に本種の地鳴きが確認されています（笹間 2025）。当地では1982年のみ確認されており、約40年ぶりの記録となりました。

和歌山県でも御坊市以南の離島や沿岸部でウチヤマセンニュウの繁殖が確認されており、約20か所で観察例があります。また、観光地として有名な橋杭岩でも本種が確認されています（日本野鳥の会和歌山県支部 2018）。三重県と隣接する新宮市の孔（く）島（しま）や鈴島では繁殖が毎年確認されており、かつ島が陸続きになっているため観察に

適しています。当地は吉野熊野国立公園に指定されていて、ウチヤマセンニュウの繁殖地として紹介されています。また、環境省による観察会も定期的に行われているようです。

### 今後の展望

「三重県島嶼プロジェクト」が立ち上がり島嶼調査の機運が高まっているなかで、ウチヤマセンニュウについても県内での継続的な生息状況の把握が望まれます。しかしながら、今まで鳴き声は何度か聴いたことがあるものの姿をしっかりと見たことがなく、仮に姿を見かけても何をもってつがいと判断するかよくわからない、鳴き声だけでつがい数を勘定できるのかといった課題があります。不安な点は多いですが、調査のなかで経験を積んでいけたらと思います。

また、今後仕事の都合で南紀にいる期間があるかと思われるので、その際は島嶼部だけでなく沿岸部でもウチヤマセンニュウを確認できるよう、観察に力を入れていきたいです。



ウチヤマセンニュウ、和具大島にて：中西 章 撮影

表1. 三重県における過去50年以内のウチヤマセンニュウの記録

日付	個体数	発見場所		観察者	文献	観察状況
1982.5.16	1羽	紀北町	紀北大島	須川恒		鳥類標識調査
2000.6.10	2つがい	志摩市	和具小島	平井正志	しろちどり118号	さえずりで確認
2000.6.10	6つがい	志摩市	和具大島	平井正志	しろちどり118号	さえずりで確認
2006.6.21	1羽	尾鷲市	矢浜	中井節二	しろちどり52号	鳴き声で確認
2023.6.17	5つがい	志摩市	和具大島	西村四郎	しろちどり118号	
2025.7.6	5つがい	志摩市	和具大島	井上梓	しろちどり127号	さえずりで確認
2025年島嶼調査メンバー会議資料より引用（著者；平井正志）						

## 引用・参考文献

- 平井正志 (2023). ウチヤマセンニュウとシマセンニュウ. しろちどり, 118, 4-5.
- 倉田篤・樋口行雄 (1971). 紀伊長島の鳥類, 14pp. 三重県紀伊長島町
- 三重県農林水産部みどり共生推進課 (2015). 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生動物～, 2 鳥類. 三重
- 水谷高英 (2020). フィールド図鑑日本の野鳥第 2 版, 320pp. 文一総合出版
- 永田尚志 (2008). Bird Research News Vol.5 No.5 ウチヤマセンニュウ 英: Styan's(Pleske's) Grasshopper Warbler. [https://www.bird-research.jp/1/seitai/5\\_5\\_pleskei%20.pdf](https://www.bird-research.jp/1/seitai/5_5_pleskei%20.pdf) (2026 年 1 月 23 日参照)
- 日本野鳥の会和歌山県支部 (2018). 和歌山県鳥類目録 2018, 17. <http://bird-wakayama.server-shared.com/mokuroku2018.pdf> (2026 年 1 月 23 日参照)
- 大槻恒介・山口典之 (2025). ウチヤマセンニュウの保全は島だけじゃダメ!! ～未確認繁殖島と本土部の草原の利用状況調査～, [https://www.bird-research.jp/1\\_event/aid/plan/BR-aid2023006.pdf](https://www.bird-research.jp/1_event/aid/plan/BR-aid2023006.pdf) (2026 年 1 月 23 日参照)
- 笹間俊秋 (2025). 紀北町大島 鳥類調査, しろちどり, 127, 6.

## 環境省主催の探鳥会「伊勢志摩国立公園で身近な鳥を観察しよう」に協力しました。

伊勢市 中西 章

2025 年 12 月 6 日に環境省伊勢志摩国立公園管理事務所主催の探鳥会のお手伝いをしました。参加者は環境省さんが募り、伊勢市や志摩市から 26 名の老若男女の方々でした。初心者の方がほとんどなので、まず穴川公民館の室内で双眼鏡の使い方や野鳥の見方をレクチャーし、その後野外に出て、穴川公民館周辺の野鳥観察をしました。野鳥の会三重からは 4 名（中西 章、井上 梓、濱屋 勝則、濱口 雅也）が協力し、環境省の職員さんとともに参加者をサポートしました。当日は天気もよく、探鳥会には絶好の日でしたが、肝心のカモ達がいなくて困っていたところ、トビをはじめ、ノスリ、ミサゴ、ハイタカなどの猛禽類が空を飛び、モズやタヒバリなどの冬鳥も観察することができました。特に穴川周辺の農耕地は、自然豊かで、冬季は猛禽類が多く、鳥たちにとって大切な場所だということを理解していただけたと思います。今後も環境省さんとこのような企画ができればいいなと話し合いました。



穴川公民館での座学



野外での観察

## ツバメの救世主あらわる～ツバメの子育て支援・活動家をご紹介します～



玉城町 西村 泉

春の訪れとともに南の国からツバメがやってきます。毎年、この時期になると伊勢市在住の山本徹さん(79)は忙しくなります。おもに南勢地域の道の駅やスーパーなどでツバメの営巣状況を見て回り、場合によっては許可を得て自作の巣受け台などを設置しています。

山本さんが活動を始めたきっかけは、約10年前のこと。自宅には何十年も前からツバメが来ていましたが、ある日ヒナがヘビに襲われたとき、2羽のツバメが家のなかに入ってきて、仏壇の前で山本さんに助けをもとめるかのように、ずっと鳴いていたそうです。それから「自分が助けなければ」と思うようになり、いろいろなグッズを準備して活動を始めました。

グッズは数々あり、手作りの巣受け台、カラスよけコード、巣の下に貼る「ツバメの子育てにご協力ください！ツバメは害虫を食べて農作物を守ってくれます」と書かれた手作りのシール、暑さよけのすだれ、「ツバメの十戒(ツバメとの共存を図るため理解と協力をお願いする文書)」等等細やかな気配りが感じられるものばかり。

数年前、大台町の道の駅では、カラスやイソヒヨドリにヒナが襲われ、ツバメが全くいなくなったことがありました。現状を目の当たりにした山本さんは、ずいぶん落胆したそうです。しかし、何とか回復させようと、まずは巣受け台とカラスよけのコードを設置し、駅長やスタッフの方たちと様子を見守

りました。現在はこうした努力により多くのツバメが飛び交い、元に戻りつつあります。

今後の抱負については、「ツバメは以前の半分以下に減ってしまったけれど、巣受け台を1,000個作成することを目標に、公共施設などでカラスなどの妨害を防ぎたい」と熱く語られました。

山本さん、今年もお元気でツバメの見守りをよろしくお願いします！



山本徹さん



手作りの巣受け台を利用した巣の様子



手作りの巣受け台



## 第2回三重県シギチドリ調査の結果

津市 平井 正志

昨年2025年秋の第1回調査に引き続き、2026年2月1日に冬季の調査を行った。調査時間は13:00から16:00と設定した。大潮であり、津市標準で干潮 11:51、満潮 17:17であった。

ミヤコドリの個体数は同日に行われたミヤコドリ調査の結果より、やや少なかった。調査地の選択や調査時間のズレによるものである。タゲリは五主などの農耕地で39羽、ケリは5羽見られた。主に内陸の農耕地で越冬するので、農耕地を大々的に調査すれば、もっと増えるであろう。ダイゼンは目立たない鳥で、注目されることも少ないが、意外と多く、167羽が記録され、かなりの数が越冬していることが判明した。シロチドリはわずか57羽であった。三重県の鳥であり、かつては100羽以上の群れがあちこちで越冬していたはずであるが、今回の結果は寂しいかぎりである。同じく、砂浜海岸で越冬するミユビシギもかつてのような大群は見いだせず、全体でも78羽であった。ハマシギは雲出川河口付近で多く、864羽が確認されたが、以前はもっと多かったように思える。もっとも津市の砂浜海岸、町屋浦、豊津浦は堤防工事が進んでおり、入

ることのできない部分が多く、今回は一部を調査しただけに終わっているため、全域を精査できれば、シロチドリ、ハマシギ、ミユビシギの越冬数はもう少しは増加するであろう。越冬する大型のシギとしてダイシャクシギが2羽観察された。オオハシシギはかつて、県内でもボラ池など内陸の池や湿地で少数個体が越冬していたが、今回は全く確認できなかった。志摩半島の砂浜海岸の一部を調査したが、シロチドリ少数個体の越冬が確認された。南紀御浜町でも内陸の越冬地を調査したが、全く観察されなかった。全体として越冬するシギチドリの少なさを反映した結果となった。

しかし、当会の方でこのように伊勢湾西岸、志摩半島、南紀まで一斉に調査が可能であることが明らかになった。シギチドリ調査のひとつの手法であろう。今年春も調査したい。なお、同一調査地を2人以上で調査した場合は主担当者を決め、その人から報告を受けた。報告に複数の数値があるものは低い数値を採用した。確実に観察できた個体数を採用したものである。

表 第2回三重県シギチドリ調査結果 (2026年2月1日)

市町名	川越	四日市	四日市	津	津	津	津	津	津	松阪	松阪
調査地点名	高松海岸	派川	箕田海岸	弁天樋門	志登茂川	安濃川	高洲町	香良洲	雲出川	五主	ボラ池
種別	河口	河口	海岸	海岸	河口	河口	海岸	海岸	河口	農耕地	湿地
ミヤコドリ	136	0	0		0	112					
タゲリ										35	4
ケリ											
ダイゼン		5	3		22	11		1	4		
イカルチドリ											
シロチドリ		2	4				3	8	15		
ダイシャクシギ											
キョウジョシギ											
ミユビシギ		4		28							
ハマシギ			2	76	30			250	300		
タシギ			1								4
イソシギ	1	2	4								
クサシギ											
アオアシシギ		5									1
合計	137	19	13	104	52	123	3	259	319	35	9

数値は個体数

なお、今回の調査に参加した調査員は以下のとおりである（五十音順）。

五十嵐 佳代子、井上 梓、今井 光昌、岡崎 かおり、  
奥山 正次、片山 賢一、金子 宗旦、笹間 俊秋、沢本 浩志、  
沢本 厚子、田中 洋子、中西 章、中村 洋子、西村 泉、  
西村 四郎、服部 哲也、平井 正志、本上 満、本上 ゆう子、  
横山 真一、吉崎 幸一、若林 祐樹。

表（続き） 第2回三重県シギチドリ調査結果（2026年2月1日）

市町名	松阪	松阪	松阪	松阪	明和	明和	明和	伊勢	伊勢	伊勢	伊勢
調査地点名	阪内川	松阪港	金剛川	櫛田川	北藤原	濱田	大淀	村松	有滝町	外城田川	土路池
種別	河口	海岸	河口	河口	海岸	海岸	海岸	海岸	農耕地	河口	湿地
ミヤコドリ											
タゲリ											
ケリ									5		
ダイゼン			59								
イカルチドリ	2										
シロチドリ			12								
ダイシャクシギ	2										
キョウジョシギ								2			
ミュビシギ							16				
ハマシギ			83	20							
タシギ											
イソシギ	1				1	1		1			1
クサシギ	1										
アオアシシギ											
合計	6	0	154	20	1	1	16	3	5	0	1

数値は個体数

表（続き） 第2回三重県シギチドリ調査結果（2026年2月1日）

市町名	伊勢	伊勢	伊勢	伊勢	志摩	志摩	志摩	志摩	御浜	御浜	合計
調査地点名	宮川A	宮川B	鷺が浜C	鷺が浜D	国府浜A	国府浜B	国府浜C	甲賀	志原	下市木	
種別	河口	河口	海岸	海岸	海岸	海岸	海岸	海岸	湿地	農耕地	
ミヤコドリ											248
タゲリ											39
ケリ											5
ダイゼン		62									167
イカルチドリ											2
シロチドリ		10			2		1				57
ダイシャクシギ											2
キョウジョシギ		7									9
ミュビシギ					8	16	6				78
ハマシギ		84				19					864
タシギ											5
イソシギ											12
クサシギ											1
アオアシシギ											6
合計	0	163	0	0	10	35	7	0	0	0	1495

数値は個体数